

# 大阪トヨタLOGI&B-TEC株式会社

## 2017年度 環境活動レポート

(対象期間:2017年4月1日～2018年3月31日)



### 【目次】

1. 表紙
2. 環境方針
3. 組織の概要、認証・登録の対象組織・活動
4. 環境推進委員会組織図
5. 役割・責任権限
6. 主な環境負荷の実績、環境目標及びその他の実績
7. 環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組
8. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果並びに違反、訴訟の有無
9. 緊急事態対応訓練
10. 代表者による全体の評価と見直し
11. 環境活動の紹介
- 12.

作成日:2018年5月24日

## 大阪トヨタ LOGI&B-TEC 株式会社 環境方針

### 基本理念

当社は大阪トヨタグループの一員として、安全と環境保全を、経営の最重要課題と位置づけ、自動車整備（新車点検・板金・塗装）、自動車用品取付、輸送業務などの事業活動を通して、地域に安全・安心を提供できる、企業を目指す。

### 基本方針

1. 事業活動が環境に与える影響を正しく認識し、環境方針を理解し、環境目的・目標を定めて、全従業員で継続的な改善活動に取り組む。
2. 環境に関する法律・規則・条例、並びにその他の要求事項として当社が同意した地域の取決めを、遵守し、環境保全レベルの向上を図る。
3. 事業活動の全ての領域で、省エネルギー・省資源・水使用量の抑制、リサイクル・環境負荷の小さいグリーン購入の促進及び廃棄物の削減に努める。
4. 塗料・シンナーなど、化学物質の管理及び使用削減に取り組む。
5. 電気使用量・ガス使用量の抑制、並びに、エコドライブの促進に努め、CO<sub>2</sub>排出量削減を図る。
6. 全従業員への教育により環境意識の高揚を図ると共に、環境保全活動を積極的に推進する。
7. 環境監査を実施して、環境管理の維持向上を図る。
8. 地域社会とのコミュニケーションを大切にし、地域のよりよい環境づくりに貢献する。

※ グリーン購入・・・環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する事

全従業員とは・・・社員、パートナー会社、アルバイト、パート、契約社員などすべての者が対象

代表取締役専務

山田 真己

制定 2017年 6月26日

## □組織の概要

更新日：2018年5月24日

### (1) 名称及び代表者名

大阪トヨタLOGI&B-TEC株式会社  
代表取締役専務 山田 真己

### (2) 所在地

本社 大阪府寝屋川市仁和寺本町3丁目2番38号  
ラック工場 大阪府寝屋川市仁和寺本町3丁目2番38号  
※寝屋川工場 大阪府寝屋川市葛原新町1-1-10  
平野工場 大阪府大阪市平野区加美西1丁目17-17

※2017年11月から建替え工事  
2019年2月完成予定  
現在、ラック工場にてBP作業実施

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 執行役員 藤木 秀一 TEL:072-828-1215  
" 執行役員 松永 洋和 TEL:072-828-1215  
担当者 経営管理部長 井上 進 TEL:072-828-1215

### (4) 事業内容

自動車整備・板金塗装・車両保管、配送  
主要製品:新車点検・用品取付・特装车製作・板金塗装・カーケア施工

### (5) 事業の規模

売上高：60.35億円

主要製品生産量 新車整備 22,533台 板金塗装 7,845件

	本社	ラック工場	寝屋川工場	平野工場	合計
従業員 [単位:名]	112	BP部 33	-	58	203
延べ床面積 [単位:m <sup>2</sup> ]	7,317	-	-	3,380.7	10,697.7

※2017年11月から寝屋川工場建替えのため休止。人員はラック工場・平野工場へ異動

### (6) 事業年度

2017年4月1日～2018年3月31日

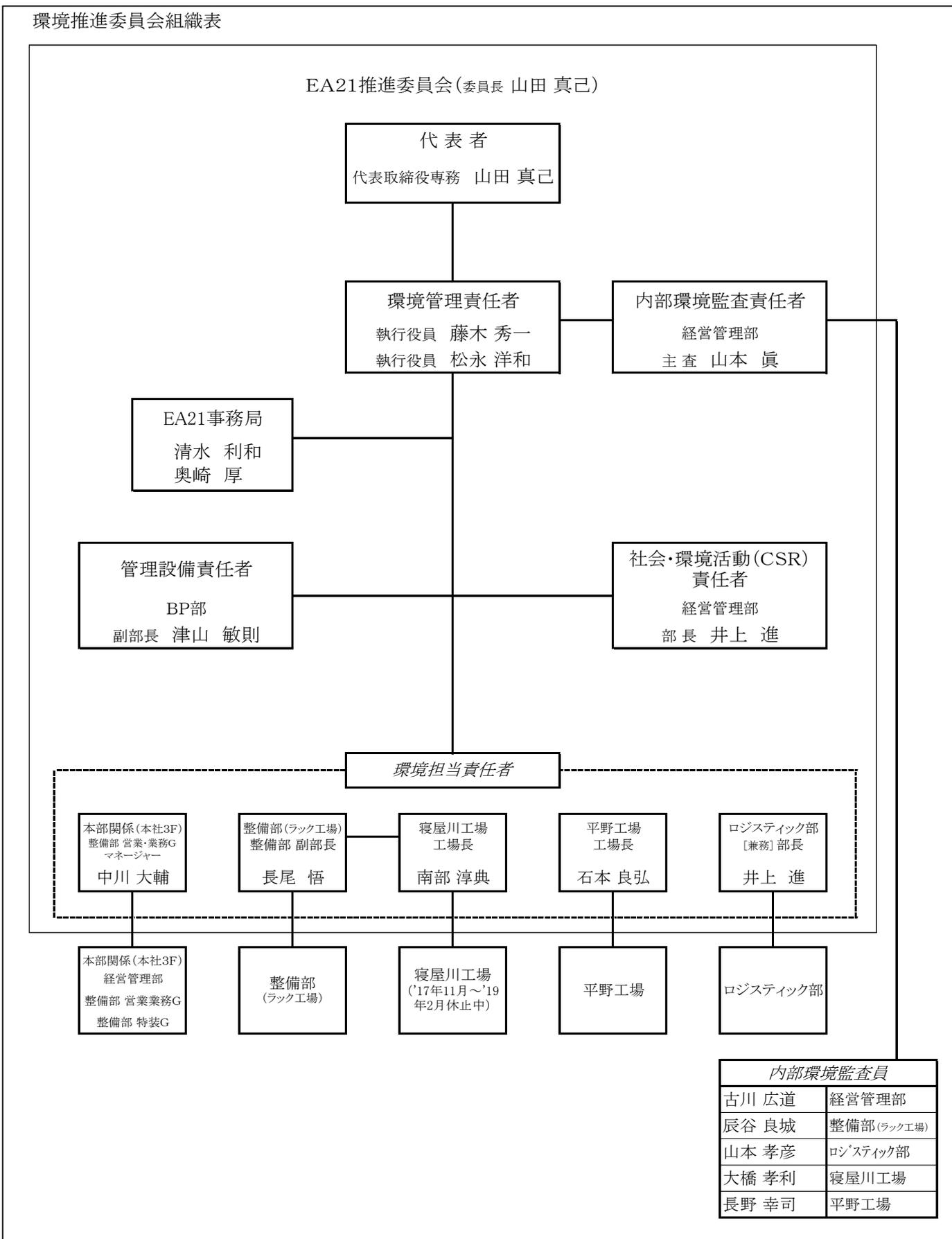
## □認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 大阪トヨタLOGI&B-TEC株式会社  
対象事業所： 本社  
ラック工場  
※寝屋川工場  
平野工場  
活動： 自動車整備・板金塗装・車両保管、配送

※2017年11月から建替え工事  
2019年2月完成予定  
現在、ラック工場にてBP作業実施

□実施体制図及び役割・責任・権限表

環境推進委員会組織表



担 当	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代 表 者	1. 環境方針を策定する。 2. EMS実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備する。 3. 環境方針の定期的な見直し。 4. 代表者による全体の評価と見直しを実施する。 5. 環境体制組織及びEA21推進委員会組織の策定をする。 6. 環境管理責任者を任命する。 7. 環境活動レポートを承認する。
環境管理責任者	1. 代表者が環境方針を策定するにあたり助言を行う。 2. 環境活動レポートの確認をする。 3. 本環境マニュアルと関連文書に定める環境管理責任者の承認事項に関わる承認を行う。 4. 担当部門の各環境担当責任者を管理監督する。
社会・環境活動(CSR)責任者	1. 発生事案を、環境担当責任者から報告を受け、助言を行い速やかに環境管理責任者に報告、指示を仰ぐ。
管理設備責任者	2. 本環境マニュアルと関連文書に定める社会・環境活動(CSR)責任者、管理設備責任者の承認事項に関わる承認を行う。
環境担当責任者	1. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックを行い、これらを基に環境目標及び環境活動計画を策定し、事務局経由で環境管理責任者へ提出する。 2. 自部門に関する環境活動計画の進捗状況を管理する。 3. 本環境マニュアルと関連文書に定める環境担当責任者としての役割、責任及び権限を行使する。 4. 日常の事業活動の中で環境対応に関する事項の運用、管理をする、並びにEMSの実績を事務局に提供する。
EA21推進委員会	1. EA21推進委員会は、原則4月、10月に開催する。 2. EA21推進委員会の開催は委員長または、環境管理責任者が招集する。 3. EA21推進委員会では、当社におけるEMSの構築、運用状況についての報告と審議並びに環境情報に関するコミュニケーションを行う。
EA21事務局	1. 環境管理責任者及び環境担当責任者にEMS見直しのための、情報の提供、及び円滑なEMSの構築と運用を図るため、サポートを行う。 2. EA21推進委員会の事務局 3. EMSの構築とその運用。 4. 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)。 5. 環境活動レポートの作成に必要な、データ、情報などを、各部から提供を受けまとめる。 6. 本環境マニュアルと関連文書に定める事務局の役割の行使および運営を行う。
内部環境監査責任者 (内部環境監査チーム 各部1名任命、計5名)	1. 内部監査責任者は環境に関する内部監査の計画を4月に行う。 2. 環境に関する内部監査の実施・報告を6月または7月に行う。 3. 内部監査の結果に基づき改善項目の進捗状況を確認する。
全従業員	1. 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する。 2. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する。

## □主な環境負荷の実績

項目	単位	2015年	2016年	2017年度 環境活動 レポート
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,679,765	1,634,202	1,553,504
廃棄物排出量	kg	356,321	360,846	410,515
一般廃棄物排出量	kg	181,486	163,615	141,867
産業廃棄物排出量	kg	174,835	197,231	268,648
総排水量	m <sup>3</sup>	10,141	10,131	9,448

※電力の二酸化炭素排出量換算値 0.531 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

## □環境目標及びその実績

項目	年度	2015年度 (基準年度)	2016年度	2017年度環境レポート		2018年 (目標)	2019年 (目標)
				(目標)	(実績)		
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	1,033,545	1,032,100	1,012,874	1,001,545	1,002,538	992,203
	基準年比	2015年	100%	98%	97%	97%	96%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	147,737	133,450	144,782	171,638	225,236	216,226
	基準年比	2015年	90%	98%	116%	97%	96%
LPガスによる二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	96,288	85,358	94,362	40,256	LPG廃止	LPG廃止
	基準年比	2015年	90%	98%	42%		
自動車燃料(ガソリン)による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	34,488	34,174	33,798	28,417	33,454	33,108
	基準年比	2015年	99%	98%	82%	97%	96%
自動車燃料(軽油)による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	367,707	349,121	360,353	311,648	356,676	352,999
	基準年比	2015年	99%	98%	85%	97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	1,679,765	1,634,202	1,646,170	1,553,504	1,617,903	1,594,537
一般廃棄物の削減	kg	118,567	91,291	116,196	71,993	15,845	15,211
	基準年比	2015年	77%	98%	61%	97%	96%
廃プラの削減	kg	90,195	102,547	88,391	193,577	291,145	279,499
	基準年比	2015年	114%	98%	215%	97%	96%
段ボール・紙類の削減	kg	7,228	8,014	7,083	8,490	7,011	6,939
	基準年比	2015年	111%	98%	117%	97%	96%
廃金属の削減	kg	78,810	69,947	77,234	72,130	76,446	75,658
	基準年比	2015年	89%	98%	92%	97%	96%
水道水の削減	m <sup>3</sup>	10,141	10,131	9,938	9,448	9,837	9,735
	基準年比	2015年	100%	98%	93%	97%	96%
シンナー・塗料の使用量削減	kg	33,728	34,329	32,042	31,869	30,355	28,669
	基準年比	2015年	102%	95%	94%	90%	85%
グリーン購入の推進	実績		694.42		258,163		
	%		56.6%	60%	62%	65%	68%
製品・サービスへの環境配慮	台	13,553	15,039	13,990	13,936	15,289	
	基準年比	2015年	111%	103%	103%	113%	

※2017年10月寝屋川工場建替え工事に伴いLPG使用廃止になり、2018年度都市ガス目標値の基準年度比見直し(都市ガス使用量増加分を計算して係数を設定 1.62倍で目標値を変更しました。)

※2017年11月ラック工場の事務系一般ゴミと廃プラ分別見直しにより、2018年度目標値の基準年度比見直し(分別見直し後の排出量を計算して係数を設定、一廃0.142倍、廃プラ3.43倍で目標値を変更しました。)

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標:○達成 ×未達成

活動:○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
<b>電力による二酸化炭素削減</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・空調温度の適正化 (冷房28℃ 暖房20℃)	○	空調温度や照明消灯の遵守は巡回チェックで維持継続が確認されており、今後も各部の朝礼終礼等を利用し更なる啓蒙を図る。ノー残業デーや残業低減については、期末繁忙期には全部署で対応が難しい状況であり、事務系間接部門からの応援も実施し現場が残業低減できるように取り組んだが残業時間は超過してしまった。
・不要照明の消灯	○	
・ノー残業デーの実施	△	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	△	
・作業改善・業務改善の推進 (部門別活動計画で運用)	○	
		<b>【次年度の取組】</b> 繁忙期に備え更なる応援体制を構築し全社体制で取り組む。新車整備及び登録に関するシステムの平準化は、大阪トヨタグループ全体で取り組む。電力使用の多くは、エレベーターや新車ラック倉庫の稼働や加熱・乾燥に使用する電気乾燥機での消費であるため、二度手間をなくす車両導線の改善や再作業の低減に取り組む。
<b>都市ガス・LPガスによる二酸化炭素削減</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・塗装ブースの点検、整備	○	工場で実施の設備自主点検実施状況は良好。自主点検表は毎月初5日までに取組結果を月次報告書に添付して事務局に提出しており、事務局からは月1回以上現地確認を実施してる。 寝屋川工場建替え閉鎖を期にCO2排出係数の大きいLPガス使用の廃止と都市ガス採用を決定しました。
・再塗装の低減	○	
		<b>【次年度の取組】</b> 各設備等の自主点検継続と予防整備を実施する。
<b>自動車燃料による二酸化炭素削減</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・アイドリングストップ	△	車両運行が主業務のロジ部ではリーダーミーティング(月2回)や全部署参加のトレーナーミーティング(月1回)を継続し、より高い意識で運行している状況。また配送スケジュールの見える化を目指して配送管理ボードの改善に取り組んだが継続的な運用においては、まだサポート支援が必要な状況です。
・効率的なルートで配送	○	
・エリア別営業活動の徹底	○	
		<b>【次年度の取組】</b> ITを活用し、モニター監視で常に最適化が可能な配送システムを作り上げる。
<b>一般廃棄物の削減</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・分別の徹底	○	ラック工場(本部、整備部、ロジスティック部、BP部)の事業系一般廃棄物分別を見直して廃プラスチック混入をなくした事で排出量は激減しました。
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・5S活動の推進(各部門で運用)	△	
		<b>【次年度の取組】</b> 11月～3月実績を参考に次年度の目標修正する。
<b>廃プラの削減</b>		
数値目標	×	<b>【取組結果と評価】</b>
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	作業ミスによる廃棄物削減の取組評価は良いが、その他要因として11月から、ラック工場での事業系一般廃棄物・廃プラスチック分別の見直しの結果、目標の約3.4倍になり全体評価としては未達成となった。
		<b>【次年度の取組】</b> 11月～3月実績を参考に次年度の目標修正する。

<次頁続く>

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
<b>段ボール・紙類の削減</b>		
数値目標	×	<b>【取組結果と評価】</b>
・コピー、印刷ミスの削減	△	11月（寝屋川工場建替工事）以降、他工場への作業振り分けによる段ボール排出の全体量に大きな変化はないが、平野工場での作業量増加に伴い廃棄物として段ボールの排出量が増加したため、評価は未達成となった。
		<b>【次年度の取組】</b> 紙類の排出はリサイクルされることを考慮した分別及び業者選択を徹底し、機密文書類もリサイクル排出に変更する。
<b>廃金属の削減</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・修理可能なパネルは板金する	○	11月以降、寝屋川工場建替え閉鎖したが、他工場への作業振り分けによる廃金属排出の全体量に大きな変化はないがラック工場B P作業で排出の金属類が増えリサイクル有価物排出になり産廃金属類の削減となった。
・特装車両のハンガーは半製品を使用し端材をなくす	○	
・修理可能なパネルは板金する	○	<b>【次年度の取組】</b>
・鋼板などは寸法指定で注文する	○	継続実施する。
<b>水道水使用の削減</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	水道使用の大半が洗車水で洗車機による水使用は循環ろ過装置も備えて年2回の水全量交換のみで効率的である、また手洗い洗車においても節水ガンを活用して垂れ流しなし、節水意識は高い。
		<b>【次年度の取組】</b> 継続実施する。
<b>シンナー・塗料の使用量削減</b>		
数値目標	×	<b>【取組結果と評価】</b>
・有害性物質の表示の徹底	○	洗浄用シンナーを有害物の少ない材料に変更（ラック工場）
・容器の蓋の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	<b>【次年度の取組】</b> 寝屋川工場リニューアルに照準を絞り対応可能な塗色のベースカラーの100%水性塗料化に取り組み、化学物質（VOC）30%低減目標とする。
<b>グリーン購入の推進</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・燃費のよい自動車の採用	○	事務用品は「たのめーる」でエコ関連商品をオリジナルカテゴリに指定し、エコ商品以外の注文をなくした。
・事務用品グリーン購入品把握	○	
		<b>【次年度の取組】</b> 継続実施する。
<b>製品・サービスへの環境配慮</b>		
数値目標	○	<b>【取組結果と評価】</b>
・①P R T R物質の削減	△	当社が取り扱う製品を推販することにより、ユーザーのエコなカーライフをサポートしている。
・②HV・PHV車両紹介	×	
・③ボデーコート（新車）	○	<b>【次年度の取組】</b> 継続実施する。
・④ガラスフィルム（新車）	×	
・③ボデーコート（既販車）	○	
・④ガラスフィルム（既販車）	○	
<b>社会貢献</b>		
活動実績	○	<b>【取組結果と評価、今後の取組】</b>
・事業場周辺道路の清掃	○	周辺道路清掃、エコキャップ運動、河川清掃参加や献血活動など、社会貢献活動を継続、推進する。 ※特に屋外での活動は、事故・ケガ等に十分気を付けること。
・ペットボトルキャップ回収・寄付	○	
・淀川河川敷の清掃活動参加（大阪府）	○	
・献血活動	○	

## □環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	空気圧縮機、送風機
消防法（危険物）	危険物庫、少量危険物庫、泡消化液（P F O S）
消防法（設備）	消防設備、自家給油所
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機、エアドライヤー、ウォータークーラー、 スポットクーラー
労働安全衛生法	有機溶剤作業、粉塵作業、騒音作業、砥石交換、クレーン運転、フォークリフトの運転、溶接作業、電動ウインチ操作、乾燥設備、健康診断、塗装作業場環境測定
P R T R 法	塗料・シンナー・溶剤等化学物質の取扱量
労働基準法	従業員の雇用、就業規則
省エネ法	建物、設備の改修・建替え
水質汚濁防止法	洗車機、洗車場、油水分離槽、排水水質検査
N O x ・ P M 法	排ガス基準適合車の使用
道路運送車両法	整備工場

▽ 環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等は過去3年間（あるいはこれまで）ありませんでした。

▽ 現在、寝屋川BP工場がリニューアル工事中であり、来年2月には、新BP工場完成を迎えます。

新工場のコンセプトは、「安全・環境・品質・効率」であります。生産能力を大幅に引き上げ、最新設備を導入することで作業効率改善を図り、周辺環境や従業員の健康面にも配慮するため、水性塗料100%導入することで、「人に優しい、環境に優しいBP工場」を目指します。

## □緊急事態対応訓練

緊急事態の想定：3F事務所横・給湯室付近より火災発生

■実施日：平成29年12月7日（木）

■実施場所：本社・ラック工場（寝屋川工場含む）

■参加者：200人

■実施内容：総合訓練（通報、消火、避難）

■評価：「○」寝屋川工場リニューアル工事の為、昨年度より対象人数が増加。2F以上の従業員も冷静に階段を使いスムーズな行動ができ、昨年同様約7分で避難場所集合ができた。

■実施状況の様子



緊急事態の想定：1Fエレベーター横、完成ストール付近より火災発生

■実施日：平成30年1月23日（火）

■実施場所：平野工場

■参加者：58人

■実施内容：総合訓練（通報、消火、避難）

■評価：「○」寝屋川工場リニューアル工事の為、昨年度より対象人数が増加。各階担当者の適切な誘導もあり、火災発生から約8分（昨年と同じ）での避難場所集合ができた。

■実施状況の様子



## □代表者による全体の評価と見直し

実施日： 2018年5月24日

管理責任者の報告及び改善への提案	代表者のコメント								
<p><b>[環境指標の達成状況]</b></p> <p>二酸化炭素排出量は、電気・ガス・自動車燃料等のCO2削減取組の総合において、2017年度実績は、1,553,504kg-CO2で基準年度比92.5%で目標達成しました。</p> <p>化学物質排出量は、シンナー・塗料の使用量削減取組の2017年度実績は、31,869kgで基準年度比94.5%で目標達成。</p> <p>水性塗料採用着手及び洗浄用シンナーの変更は効果が伺えた。</p>	<p>変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>CO2・化学物質排出量の削減において、電力・ガスの削減取組は、各部署の地道な取り組みを継続する。2017年 11月から寝屋川工場建替えによるBP工場体制の見直しをおこない、変化に対応した取組目標の再設定が必要であった。化学物質使用量削減においては、2019年度の水性塗料転換に向け各年度計画の達成を図る。</p>								
<p><b>[環境取組の達成度と課題、今後の活動予定]</b></p> <p>水性塗装台数割合100%を目指し、2017年度目標は645台、取組実績499台で達成度77.4%と未達でした。また、2017年度取組対象は小ダメ主体だったが、2018年度は、大ダメ作業も対象に含め、すべてのダメを対象に実践作業の強化を図り早急な技術習得が望まれる。</p>	<p>変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>各環境担当責任者は取組内容を部署に周知させる。化学物質使用量削減においては、2019年度の水性塗料転換に向け各年度目標件数に対し積極的に実践し、100%水性塗装に向け関係者一丸となり取り組むこと。</p>								
<p><b>[法規制の変更と遵守状況]</b></p> <p>法令順守評価に基づき、毎月怠りなく実施又外部検査機関による環境測定、水質検査を実施、各項目問題なく基準をクリアしました。</p> <table border="1" data-bbox="151 1037 738 1187"> <thead> <tr> <th>法令遵守確認</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月・11月塗装作業場の環境測定実施</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>10月 工場排水水質測定実施</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>寝屋川工場建替えに伴う各種届出</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	法令遵守確認	結果	5月・11月塗装作業場の環境測定実施	○	10月 工場排水水質測定実施	○	寝屋川工場建替えに伴う各種届出	○	<p>変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>関係法令・条例の改正や、その他の要求事項対応を、迅速に行う。寝屋川工場建設に関する届出等、大阪トヨタ自動車及び建設会社、設備会社等と定期的に連絡を取り合い、関係法令等の遵守状況を確認をすること。</p>
法令遵守確認	結果								
5月・11月塗装作業場の環境測定実施	○								
10月 工場排水水質測定実施	○								
寝屋川工場建替えに伴う各種届出	○								
<p><b>[内部監査の結果と是正状況]</b></p> <p>5部門に内部監査を実施</p> <p>結果： 不適合6件 軽微な不適合14件</p> <p>各部門からは是正計画及び是正報告書の提出あり</p>	<p>変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>各環境担当責任者は法令及び取決め事項の遵守並びにそのチェック体制を再構築する。指摘事項への対応と是正策の有効性及び定着を監査継続すること。事務局による環境・安全パトロールを継続する。</p>								
<p><b>[外部からの苦情と対応]</b></p> <p>隔月の近隣訪問活動においては、苦情等の問題もなし、工場からの騒音、異臭なども、定期的にチェックしており問題はありませんでした。宝町駐車場の使用用途変更に伴う、フェンスの目隠しについて、近隣2軒から「見通しが悪くなった」と、ご意見があった。一部目隠しを撤去し近隣へ対応報告の為、再訪問実施。</p>	<p>変更の必要性: <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し</p> <p>近隣住宅への訪問活動を通じてコミュニケーション継続を図る。ご意見等については真摯に受け止め、環境対応責任者は現地・現物確認を実施、社会・環境活動責任者と協議し可能な範囲で対応を実施すること。</p>								
<p><b>[総括]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>水性塗料への転換は計画どおりに進めて、環境負荷削減を図る。</li> <li>寝屋川工場建築において事前届出の必要な案件は、業者任せにせず定期的に確認する。</li> <li>各種改善活動の推進、定着(各部門で運用)を図る。</li> <li>上記以外は、日常的な取り組みの継続とし、EA21推進委員会などを通じ社内へのより一層、浸透を強化する。</li> </ol>									

## 環境活動の紹介

### ▽ 事業場周辺道路の清掃(月2回以上)



本部・ラック工場



平野工場



※寝屋川工場はリニューアル工事中に付き掲載しておりません

### ▽ 淀川河川敷の清掃活動(活動日:H30年2月18日)

